

令和 7 年度中央公民館事業計画

1. 地域の状況

中央公民館管区は市域南部の湾岸地域に位置し、県内屈指の利用者数を数える JR 総武線・京成線・東武アーバンパークラインの船橋駅があり、大規模商業施設や商店・飲食店、事務所等がある都市型地域と古くからの住宅街や寺院を含む地域で構成されている。面積は約 5.1 km²、令和 7 年 4 月 1 日現在の人口は 32,513 人 (20,016 世帯)、15 歳未満の割合は 8.4% (市全体 11.6%)、65 歳以上の割合は 18.5% (市全体 23.8%) で、市全体の数値から見た中で、比較的小児と高齢者が少ない地域となっている。

2. 地域の課題

- (1) これまでの新型コロナウイルス感染症の影響による活動制限やサークルの高齢化により、当地域で活動する社会教育関係団体も減少傾向にあるため、既存団体への支援や新規団体の育成に引き続き取り組む必要がある。
- (2) 少子高齢社会における諸課題への対応、及び人生 100 年時代を想定した、家庭教育や子育て支援、健康づくり、青少年の居場所づくり、高齢者の生活等に関する学習機会を提供する必要がある。
- (3) 南部ブロックでは生産年齢人口である 15～64 歳の割合が高く、生涯学習に関するアンケートにおいても、こういった世代で職業上必要な知識・技能を学びたいという声が多い。
- (4) 生涯学習に関するアンケートにおいて、居住地域について心配なこととして「災害対策」や「外国人住民との関係性」が他ブロックと比較して高い。
- (5) 施設利用については、市関係各課の使用が多いため、サークル等の利用に支障が出ないような配慮が必要であるとともに、地域防災の拠点として、非常時の避難所運営を迅速に行えるよう日頃から備える必要がある。
- (6) 本町地区の住民の方から、中央公民館は市全体の公民館であって、地区の公民館ではないとの意見を頂戴している。地域の拠点として地区の方が身近で利用しやすい施設とする必要がある。

3. 重点目標

- (1) 社会教育関係団体は、住民が主体的となって学習を行い、学習の成果を地域の課題解決のための活動に繋げ、地域の発展に寄与しているため、既存団体への支援や新規団体の育成に引き続き取り組む。
- (2) 少子高齢社会における諸課題への対応、及び人生 100 年時代を想定した、家庭教育や子育て支援、健康づくり、青少年の居場所づくり、高齢者の生活等といった、幅広い世代に対応できる学習機会の提供を心掛ける。

- (3) 高齢者に限らず、それぞれの世代が「人生100年時代」を想定して自らの人生設計を積極的に考え、生涯を通して知識と時代の変化に応じたスキルを獲得することが必要と思われることから、リカレント教育の推進を図る。
- (4) 居住地域について心配なこととして、「災害対策」や「外国人住民との関係性」があがっている。このようなことから防災学習の推進や、異文化に触れる機会の創出といった、地域住民のニーズに対して、より学びを深めることができる事業の検討を行っていく。
- (5) 施設利用に際して適正な運営を図ることで施設の効率的・効果的な利用促進に努めるとともに、公民館の施設及び設備の管理をきめ細かく行い、利用者の利便性の向上を図る。また、地域防災の拠点としての役割は大きいため、非常時の避難所運営を迅速に行えるよう日頃から備える。
- (6) 地域住民のニーズを捉えた事業を実施していくとともに、公民館の利用の仕方や各種事業について広く周知する。あわせて、地域の方々が生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を感じられるように努める。
- (7) 基幹公民館として、ブロック内公民館との連携を密にして広域的な事業を実施するとともに、地区公民館の支援に努める。また、市内26公民館の総合的連絡調整と中央館機能の役割を果たす。
- (8) 改修工事により令和7年12月から休館を予定しているため、屋外や他館を利用した事業、オンラインの事業等の多様な学習の機会の提供に努める。